

県土強靱化対策特別委員会会議記録

県土強靱化対策特別委員長 近藤 和義

1 日 時

平成27年8月6日（木） 午後0時02分から
午後0時20分まで

2 場 所

第3委員会室

3 出席した委員の氏名

近藤和義、元吉俊博、吉富英三郎、古手川正治、毛利正徳、三浦正臣、尾島保彦、
玉田輝義、久原和弘、堤栄三、森誠一

4 欠席した委員の氏名

な し

5 出席した委員外議員の氏名

な し

6 出席した執行部関係の職・氏名

な し

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

(1) 付託事件の調査計画について、協議した。

9 その他必要な事項

な し

10 担当書記

政策調査課調査広報班	主幹	内田潔
政策調査課政策法務班	課長補佐（総括）	平山高広
議事課委員会班	副主幹	大久保博子

県土強靱化対策特別委員会次第

日時：平成27年8月6日（木）本会議終了後

場所：第3委員会室

1 開 会

2 協議事項

(1) 付託事件の調査計画について

3 その他

4 閉 会

会議の概要及び結果

近藤委員長 ただいまから、委員会を開きます。

元吉委員が少しおくれるとのことですが、ご了承をお願いします。本日の委員会は、付託事件の調査計画についてご意見等をお聞きします。

まず、本委員会の調査計画案について事務局から説明をさせます。

〔事務局説明〕

近藤委員長 以上、事務局に説明をさせましたが、説明された内容で調査を進めてまいりたいと考えていますがご意見をお伺いします。

久原委員 例えば1の社会基盤整備については、太線をしているところの東九州新幹線と道路整備を中心にする。太平洋新国土軸、豊予海峡ルート構想等はおいておくという意味かい。

事務局 テーマとしましては、東九州新幹線、道路整備としておりまして、太平洋新国土軸、豊予海峡ルートは扱わないという案にさせていただきます。

近藤委員長 ほかにありますか。

久原委員 新幹線よりも太平洋新国土軸、豊予海峡ルート構想のほうが大事のようあるがのう。なぜ言うかと言うと、例えば熊本は新幹線ができてるんや。それで熊本の商店はガタガタになっているというんや。熊本の人が皆福岡に1時間で行くから。だから強靱化どころか、ガタガタになっているわけや。

東九州新幹線よりも、豊予海峡を結んで四国から大阪から人を呼ぶような、ここを東九州の玄関口にするようなことが大事だと思うんだけどな。もちろん自分たちが生きている間に豊予海峡ルートができるかどうかはということはあるけどな。

元吉副委員長 実は東九州新幹線を扱うことについては、私が言いました。最初、太平洋新国土軸という話もあったのですが、東九州新幹線をぜひ皆さんで協議させてもらいたいと言いました。

新幹線は九州の東側が全然できていない。日豊線についても全線で複線化もできていない。こういう中で、最終的には宮崎、大分の議員の期成会をぜひつくるぐらいの調査を始めるアクション起こすことが必要だと思います。いつまでたってもJR自身が全く行う気がありません。行政側というか、我々も含めてそういった働きかけをしないと前に進まないんじゃないかな。確かに新幹線ができたなら地域が空洞化するのではないかとの意見もありますけど、それは地域がいかに呼び込みを行うかという別の視点であります。本当に立ちおけているというのが、東九州新幹線であり、また日豊線の複線化なので、ぜひ、JRに、北部九州地域本社にまで行ってでも、いろんな計画を調査したいということで提案をいたしたところです。ぜひお願いします。

毛利委員 九州の東の玄関口、拠点化ということを、今、行政も言っています。久原委員の言うとおりもありますし、元吉副委員長の言うとおりもあります。東九州自動車道が県内全線化になり、来年には福岡、さらには宮崎方面にもつながっていきます。そうになっていく新たな展開に対して県も研究会を設置しています。その中に、東九州新幹線の整備に

ついてという議題も挙がっております。県も研究しております。ですから、東九州新幹線についても、久原委員が言われることも重要なので、順序立てて調査を行えばいいのではないかと思います。

堤委員 東九州新幹線については、久原委員が言った地域の空洞化の問題、つまり負の遺産もあるわけや。そこで、東九州新幹線を調査する中でそういうことまで踏み込んで、つまり、地域がどういうふうに疲弊しているのかを調査してみてもどうか。新幹線の駅があるところは絶対発展していると思われ、在来線のところは結構疲弊している状況があるんだから、そういうことを全体的に考えるようにしてみてもどうか。あと、新幹線が通っている福岡県と鹿児島県が本当に東九州新幹線をやる気があるのか。東九州新幹線をやる場合は、そういったことまで踏み込んだ調査をするといいいのではないかな。

近藤委員長 皆さん、ほかにありますか。

毛利委員 東九州新幹線の調査をするか、しないかということであればしたほうがいい、内容については、今堤委員が言われたようにやればよいと考えます。

元吉副委員長 太平洋新国土軸、豊予海峡ルート構想等をも含めた3つとも調査をしていると思いますが、時間的な問題で2つだけにしようか。来年、太平洋新国土軸、豊予海峡ルート構想等も調査していいのではないのでしょうか。

九州新幹線整備の前段として、日豊線の複線化についての話についても、JRの意向、どう考えているのか全然こっちが何ら情報を持っていません。そのことも含めて調査を行う、あるいはJR関係者を呼んで話を聞くとういことを強く希望していきたくと思います。

毛利委員 いずれにしても調査をスタートしたほうがよろしいかと。本来はもう調査をスタートしておくべきであったんでしょうけど。おくれた感じがあります。調査をしないと先に続かない。調査を行うか否かについては、調査をやったほうがよいと思います。

玉田委員 社会基盤整備を来年度に持っていったというのは、今年度はあまり議論する内容がないということですか。

事務局 進め方としまして、時間が限られておりますので、今年度やろうとしているものとして、2番目のものと3番目のものを案としており、1番目のものを次年度とするようにしております。

玉田委員 1番目のものだけを来年度にしたというのは、委員長、副委員長の意向ということですか。

事務局 進め方の案として出させていただいているものでございます。

玉田委員 今までの話を聞いていると、今年度もJRの調査をしてもいいのではないかなという気がします。JRの関係者を参考人招致するというのは、来年度、28年度に実施するという案ですよね。

事務局 委員長、副委員長と協議を行い、事務局の案としまして、社会基盤整備につきましては次年度ということにしております。

玉田委員 九州新幹線については、前段として、日豊線を複線化するという今クリアしないといけない問題もありますが、これも、強靱化の1つだと思います。そういうことを考えると今年度からできる調査はやっていくことはどうでしょうか。スケジュール的に難しいということであればできないかもしれませんが。

堤委員 調査ができるのであればやったほうがよい。調査については相当時間がかかるん

じゃないかな。

玉田委員 それと平成28年度末に報告書、提言書を出すということにしていますが、そういうことであれば調査の関係はできるだけ早くして委員会内の議論というのを少し時間をとってやるようなスケジュール配分がいいような気がします。

近藤委員長 よろしいですか。一応2年次に県内の道路を調査するようにしています。県内の道路の整備のあり方がこういうことでいいかということをしつかりと目くばせをしてやることも大事だということで2年次に挙げてあります。

皆さんの意見を伺いまして感じましたことは、やはり、総合的に調査を行ったほうがいいのかなという思いがしております。詳細な調査計画につきましては、委員長、副委員長にご一任をいただけたらありがたいです。皆さんの意見を踏まえて行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〔「はい」と言う者あり〕

近藤委員長 よろしいですか。

〔「一任しました」と言う者あり〕

近藤委員長 それでは、次回の委員会ですが、地域防災力の現況、橋梁・トンネルにおける長寿命化の調査ということでまず始めたいと思っておりますが、よろしいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

近藤委員長 それでは、そうさせていただきます。

詳細は、後日事務局より連絡をさせます。

そのほかに、何かございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

近藤委員長 別にないようでありますので、これをもって本日の委員会を終わります。

ご協力ありがとうございました。